

品川寺（南品川3-5-17）の梵鐘とアリアナ美術館

真言宗醍醐派別格本山 品川寺は、弘法大師空海により806年～810年（大同年間）に創建された寺である。

現在、品川寺にある梵鐘は1657年（明暦3年）、徳川家綱（徳川幕府第四代将軍）により徳川家康、秀忠、家光の供養のために京都三条の鋳物士 大西五郎左衛門が鋳造し、寄進された。鐘身には京都七条の大仏師 康斎が六観音像を浮き彫りにし、観音経一卷が陰刻されている。

この鐘は、1897年のパリ万博と1873年のウィーン万博に展示するために海外へ持ち出されたが、その後所在不明となっていた。

1919年（大正8年）、当時の住職 仲田順海和上がスイス・ジュネーヴ市のアリアナ美術館に所蔵され、開閉館の鐘として使用されていることが確認された。

鐘は外務大臣 幣原喜重郎ほか多くの人々の尽力もあり、1929年（昭和4年）ジュネーヴ市議会が満場一致で返還に同意。1930年（昭和5年）、ジュネーヴ市より品川寺へ贈還された。

鐘は、1930年5月4日に、小泉又二郎大臣（小泉純一郎元首相の祖父）やスイス国トラベルシニー駐日公使ら5,000人が参加した東京日比谷音楽堂での「スイス国贈還大梵鐘歓迎会」で迎えられ、翌5月5日に牛車に引かれた大梵鐘は品川町民総出で迎えた「品川寺大恩賞歓迎会」で無事に品川寺に安置された。同年、品川寺はアリアナ美術館へ石灯籠を贈呈している。

1964年（昭和39年）、東京オリンピック開催時にスイス選手団150人が品川寺を訪問した。これを契機に1990年（平成2年）、梵鐘鋳造333年・贈還60周年・スイス建国700年を記念し、新梵鐘がジュネーヴ市に贈呈され、アリアナ美術館の庭に設置された。

1991年（平成3年）、品川区とジュネーヴ市で友好憲章が締結され、1985年に品川区に設立された品川国際民間友好協会（1992年～品川区国際友好協会 SIFA に名称変更）とジュネーヴ市のジュネーヴ・品川友好協会（AAGS 1992年～）により、1992年から隔年で青少年派遣を行うなどの民間での友好事業も行われることとなった。

2016年（平成28年）9月、ジュネーヴ市で行われた友好憲章締結25周年記念式典では、両区市によるコミュニケ調印を行った。その後、アリアナ美術館の庭で、品川寺により梵鐘の記念式典を行った。